

令和6年度 第2回 福知山市上下水道事業経営審議会

日時：令和6年11月11日（月） 午後1時30分から午後3時
場所：福知山市上下水道部庁舎 3階 301会議室

〔委員〕 (敬称略)	齋藤達弘	会長・福知山公立大学 教授
	越後信哉	副会長・京都大学大学院地球環境学堂 教授
	松本清香	公募委員（欠席）
	中井政夫	公募委員
	桐村信太郎	福知山商工会議所 中小企業相談所 所長
	衣川浩行	福知山市商工会 事務局長
	嵯峨根正和	一般社団法人長田野工業センター 参与
	谷垣 均	福知山市自治会長運営委員連絡協議会 駅前町自治会長
	森田雅子	福知山市連合婦人会 会長
	碓 正登	京都府建設交通部水道政策課 課長
工藤 真	京都府建設交通部下水道政策課 課長	
〔上下水道部〕	中村直樹	福知山市上下水道事業管理者職務代理者（上下水道部長）
	松井美幸	経営総務課長
	井上義信	上下水道部次長兼水道課長
	山本英典	上下水道部次長兼下水道課長
〔事務局〕	志賀 亘	経営総務課課長補佐兼経理係長
	山崎志帆	経営総務課経理係主任
	櫻尾篤士	経営総務課経理係主任
	西村さつき	経営総務課経理係主査
	杉山貴哉	経営総務課経理係主査

○新規委員委嘱

山崎主任 それでは、まず初めに1名の委員の交代がございましたので、委嘱状の交付を行いたいと思います。

～中村部長から1名（工藤氏）に委嘱状を交付～

○開会及び開会あいさつ

齋藤会長 福知山市上下水道事業経営審議会規程第5条第2項の規定に従いまして、委員の皆様のご出席を賜っておりますので、ただいまから令和6年度第2回福知山市上下水道事業経営審議会を開催させていただきます。

それでは、次第に沿って議題を進めさせていただきます。最初の議題ですけれども、令和5年度水道事業・下水道事業会計決算について、経営戦略との比較を中心に報告をお願いしたいと思います。

○令和5年度水道事業・下水道事業会計決算について

～志賀課長補佐 報告～

齋藤会長 ありがとうございます。水道と下水道両方についてご説明いただきました。委員の皆様からご意見やご質問等をお伺いしたいと思います。

衣川委員 資料1-1が概略で、資料1-2が詳細資料なのだと理解していますが、数字に微妙な違いがあるのはどういうことでしょうか。

志賀補佐 これは消費税の関係によるものです。資料1-2は消費税抜きで、資料1-1は税込み表示となっています。

工藤委員 経営戦略との比較が示されているところですが、今回の決算を受けて、経営戦略の見直しを行ったりはしないのでしょうか。または、何か見直すタイミングがあるのか教えていただけますか。

志賀補佐 経営戦略は令和5年度に見直したばかりで、昨年度改定した経営戦略の数値がこちらの資料に記載されております。

次回の経営戦略の改正時期としましては令和10年を予定しております。

工藤委員 下水道の方の年間投資額が経営戦略の62%ぐらいで、だいぶ差があるなと感じたのですが、その点に関しては投資上問題ないという認識でよかったですでしょうか。

山本次長 現在、下水道事業においては地震対策、浸水対策、ストックマネジメント計画、長寿命化の工事を実施しています。中でも、ストックマネジメント計画の中で一番大きな汚泥再構築事業を実施しておりまして、来年度で完了見込みでして、現在年約 20 億円で実施中です。

この事業は繰越額が相当大きくなっておりまして、その関係で決算額が小さく見えていますが、実際は経営戦略の予定とほぼ同等のところまで工事が進んでおり、8 年度以降は、若干予算額を落として、他の工事を進めていきたいと考えています。

齋藤会長 ありがとうございます。今のご説明ですと、繰越をしていますので、将来的には経営戦略よりも決算の方が大きい数字の場面がでてくる。それが 2、3 年後というような理解でよろしいでしょうか。

わかりました。私もこの差はかなり大きいなと思いますけども、「繰越」ということですので、多年度で見なくちゃいけないのだろうと理解しております。

衣川委員 企業の場合でしたら、損益計算書と貸借対照表を作成しており、黒字経営でもキャッシュがなければダメといった考えがありますが、この貸借対照表のような財産や借入金、繰越金の累積がわかる資料はないのでしょうか。

志賀補佐 本日の資料にはないのですが、決算書がございますので、後日郵送をさせていただきます。

齋藤会長 ありがとうございます。私も企業会計の方がわかりやすいなと思って、それに即してお尋ねしてその時は理解するんですけど、また忘れてしまう感じで。いわゆる儲かって銭足らずの状態が企業にとっては深刻で、その時にそのキャッシュをどうするのか、借りることができれば問題がないだろうというのが大体の考え方だと思います。その点について、上下水道事業は、いわゆる借入がしやすいという点で、資金繰りがショートするような事態っていうのは避けられているのだろうなというふうに理解をしています。

碓委員 7 ページに、修繕費について予算執行の減少とあるのですが、これは修繕が減ったということですか。それとも効率化が図れたと

ということですか。もしくは委託料に移ったということですか。

松井課長 修繕費については、基本的に水道事業の日常突発的に起きる修繕は、包括委託の中でみることになっていまして、それ以外にもっと大きな修繕が必要になったときに、包括委託以外で修繕費の予算も計上しています。それが結果的に委託業務の範囲内でできる修繕が多かったということで、予算残が生じたものであります。

淀委員 あともう1点、国と府の関連の随伴工事とありますが、こちらも結構減っているのですか。来年度以降またでてくるのでしょうか。

井上次長 来年の動向を聞かせてもらっているところでは、ここ2、3年非常に多かったのですが、来年は若干減ってきているように聞いております。少しはありますが、ここ2、3年よりは少し事業量が減ってきているものとして今のところ計画を立てております。

越後副会長 決算としてはいわゆるプラスで、大変結構なことかと思うのですが、説明の中で「今後より厳しい状況も考えられる」とあったので、今後どうなっていくそうかというスパンの長い見通しについても、ご説明いただけるとなおよいかないかと思いました。

松井課長 本日は決算ということで令和5年度の状況についてご説明いたしました。その中で、令和5年度は実際のところ、何がよかったかといいますと、収入が増えたのではなくて、単に費用が減ったということが収益を上げた要因になっています。

ということは、令和7年度以降、収入が増える見込みはこのままではなかなかないという状況にある中で、費用を抑えたいところですが、物価も上がってきますし、人件費についても公務員の給与を引き上げる旨の人事院勧告があり、おそらく福知山市も準じていくことになろうと思います。電気代も下がる見込みがなく、費用が抑えられる見込みがない状況で、経営は厳しくなっていくことが想定され、何を効率的に取り組んでいくのか、収入をどうするのかということをご議論いただければと思いますのでよろしくお願いします。

齋藤会長 ありがとうございます。

経営戦略を立てたときに、計画期間の最後2、3年は赤字になるよう

な試算となっているんですね。ですので、最初に策定した経営戦略から計画期間の半分を過ぎた状態であるので、これから正念場かなと。つまり今までうまくいっていたのは、ある意味戦略どおりで、今後悪くなるとしてもそれは戦略どおりではあります。動向を注視していかなければならない場面にきているんだらうと思います。今おっしゃられたとおり、令和5年度の状況がずっと続くものではないと覚悟しておかなければいけないのだと思います。

決算については、そろそろおしまいにはしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では次の議題に移りたいと思います。次は、福知山市上水道事業等包括的民間委託についてです。包括的民間委託については、令和元年度から第一次がスタートし、5ヵ年ということで、令和5年度までで一区切りがついたということになります。今日はその報告になるわけですけれども、すでに今年度から第二次の包括的民間委託について内容を拡充して、業務を開始しております。

この審議会では、経営戦略の中で、この包括的民間委託についてご議論いただいているわけですけれども、その結果どうだったのかということについては、どのように報告をしたらいいのかというのが実はまだ定まっておりません。今回はとりあえず第一次が終了しましたので、そのことについて報告をしたいと思います。

第二次につきましても、どういう報告の形がいいのかということも、模索している状況と聞いていますので、そのことも含めて説明いただけたらと思います。よろしくお願ひします。

○福知山市上水道事業等包括的民間委託について

～松井課長 報告～

齋藤会長 ありがとうございます。経営審議会がこの包括的民間委託とどのように関わるのかについてはどこにも定められていないので、何かの機会に報告をお願いしたいとは考えております。今ご説明いただいたように毎月ちゃんと業務が行われているかどうか見ているということなんですが、この会議でそれをどう報告することについては決まっておきませんので、事務局で報告しやすい形で、報告していただけたらというふうに思います。

では、今説明いただいた内容について、ご質問なりご意見なりござ

いましたらお願いします。

中井委員 今包括委託のご説明いただきまして、福知山市におきましては、非常に先見の明があるといえますか、京都府で一番に取り組んでこられたということで、有収率の向上にその効果が出ているとのご報告をいただきました。

そんな中で、現在国土交通省からも、ウォーターP P Pに対する取組をどうするのかと問われていようかと思えます。特に下水道事業においては、国からの交付金に対しそれが要件化されるというように聞いております。他の自治体においても、その期限が迫ってくるということで、一気にウォーターP P Pに対する取組が各自治体で出てくる頃だと思えるのですが、福知山市においてはどのようにお考えか、お聞かせいただけますでしょうか。

山本次長 ウォーターP P Pについて、下水道の包括的民間委託的な形をとらないと、令和9年度の交付金の要件から外れることとなっております。現在、全国でウォーターP P P関連の研修がたくさん行われており、そういった研修への参加や先進地への視察などを行っています。実際に先進地で行われている委託内容には、管路のみ、処理場のみ、すべてを合わせて実施されている市町村など、いろいろなやり方があります。福知山市の現状の処理場数が、公共が1、特環が2、集排が18とたくさんありますので、どのような選択をするのがベストなのか、現在も検討しながら、しっかりと進めていきたいと思っています。

中井委員 下水道事業において、現在終末処理場の汚泥処理施設再構築事業をDB（デザインビルド方式：設計と施工を一元化する手法）でやっておられ、令和7年度に終了する。その後O（オペレーション：運営）が入ると思うのですが、そことの関わりはいかがでしょうか。そこで、SPCを立ち上げてやられると聞いているのですが、それとウォーターP P Pとの関連はいかがでしょうか。

山本次長 現在の汚泥再構築事業ですが、令和7年度で工事が完成します。そのあと令和8年度から維持管理が進むということで、来年度SPCを設立される予定で、その後契約を締結し、維持管理を行っていくということになります。その汚泥有効利用の部分について、要求

水準書の中で示しているとおおり、それに従ってSPCの方と進めていく予定としております。その他の通常の施設の維持管理、管路の維持管理、工事までのどこまでを業務委託にするかについては、現在のところ別途検討中です。今後の動向にもよりますが、現在のところは汚泥有効利用施設の維持管理をしっかりとやっていただくということで考えております。

谷垣委員 一般的な話なんですけど、水道料金の回収率って何%ぐらいあるんですか。

松井課長 料金回収率なんですけれども、令和5年度で98.2%となっています。3月31日時点で、その時に調定した料金に対して実際いくら入ってきたかで計算しますので、暦の関係、締め切りの日の関係で、年度によって多少増減しますが、毎年95から98の間ぐらいで推移しているかと思えます。

谷垣委員 100%じゃなくてもいいのですか。

松井課長 3月分の調定が4月に入って納付されることもありますので、最終的にどこかの時点でその年度の分が回収できるようにという努力はするんですけど、なかなか100%にはならないのが実情です。

齋藤会長 今のお話は、後で3月までの調定分の中で、7月とかに回収した分は、後で集計し直してもう1回率を出すってということですか。

今のご質問の趣旨は、包括的民間委託との関係で令和元年度と比べて、何か大きな変化があったかということかと思ったのですが、何か変化はございますか。

松井課長 毎年変化しているんです。当然包括的民間委託の業務の中で、料金の回収ですとか、滞納されている方へのアクションも含まれていきますので、一定の水準を保ってくださいとお願いをしております、それは達成していただいているんですが、例えば令和5年度は98.2%ですけど令和4年度は94.3%だったんです。それが先ほど言いました暦の関係によるもので、3月分の請求の締め切りは4月10日と翌月になるのですが、どうしてもその後半で払われる方がいらっしゃることもあって、数値が上下することはあります。

齋藤会長 多分最後の0.1%を稼ぐのにとんでもない費用がかかるから、そこを見逃そうという、そういう発想なんだろうと思います。

越後副会長 包括委託が基本的にはうまくいって第二次に突入したのは喜ばしいことだと思いますし、例えばメタウォーターさんは各地で受託していますけど、福知山は比較的早かったのかと思っています。

そこで質問なんですけど、6ページの上の管路更新率のところの上昇傾向とあるのですが、資料を見るに上がっているというよりは平成30年度がことさら低いようにも読めるんですね。28年度や27年度の記載ないから、ちょっとわかりにくいんですけど、ずっとじり貧だったのがゆるくV字に回復したのか、そうでもないのか、どうなんでしょうか。

井上次長 説明で、包括委託した関係で数字的にはいい方向に向かっているとのことでしたが、実際のところ老朽管はすごくたくさんあります。将来を見越して、すぐにでも更新をしていかななくてはならないので、更新率は、極端に言うと1%というような数字が理想であると思います。ただ、経営戦略上の投資可能額、経営を安定していくため、投資できる金額も計画上限られていますので、その範囲で更新をしている状況です。また、お金がたくさん使えても、それを実施するマンパワーも限られているというところで、現状では0.5%程度で、これがここ数年続くという計画です。

越後副会長 上昇傾向って書いてもいいんですけど、コンスタントに更新できているっていうことでもいいのかなと思いました。こういった統計や数字で表現するのは1つの方法だと思うんですが、職員が働きやすくなったとか、何かそういったものも評価に加えてもいいのかなと思います。数字とかお金にあらわれない部分で、企業のノウハウとか、見えないところで少し質が上がったとかあると思うので、そんな内容を書き留めておくといいと思います。

中村部長 第一次包括を開始する時、当時水道課長だったんですけども、職員は日中ほとんど修繕対応等で現場に出て席におらず、帰庁後、残業時間で更新工事の設計をしているというような状態が続いておりました。ですが、上下水道部長として帰ってきてから様子を見てお

りますと、やはり日中座って更新工事の設計をしている職員が非常に多くなり、超過勤務がすごく減ったと感じます。これは、大きな職場環境の改善になったということで、ご報告させていただきます。

それと、更新率については確かに副会長おっしゃるとおり見ようによっては横ばいというふうに見えるとも思います。そこについては我々も認識しておりまして、この数値自体は、更新延長を基に計算しておりますので、小さい管路を中心に更新すれば、もっと延長が伸びて更新率が良くなるんです。

しかしながら、やはり基幹管路や重要管路などの大きい管路から優先的に更新していく必要がございますので、そちらを今、先行してやっています。なので、どうしてもこの予算規模からいくとこの程度しかできないという状態です。

この現状を打破するために、第二次包括民間委託では、漏水が頻発している箇所を予防保全という形で、委託の中で更新してもらうこととしており、それも更新率を上げる1つの策として、第二次から新たに取組んでいます。この件については、大きな課題と認識して、今後も取組んでいきたいと思っております。

齋藤会長 ありがとうございます。今の数字は計算するのは大変なんですか。何か自動的に出てくるような仕組みになっているんですか。

というのは、例えば令和6年度の数字についてはいつごろ出せるのか、そのタイミングによって、この審議会に資料だけでも提出していただければいいのかなと思ったりするんですが。この数字についての作成の困難さというのはどの程度の感じなんでしょうか。今回の資料では4つ出しているんですけど、経営戦略にはもっとたくさんの数字があげられていますよね。であれば、どのぐらい大変なものなのか。

松井課長 こういった経営指標ですとか、更新の数値などはいろいろとあるんですが、大体決算が出て、その後国からの照会が秋ごろまであり、そこで確定する数字もあります。今回決算のご報告をさせていただきましたけれども、たとえばこのタイミングで比較することは、大変というよりは、すでにある数字ですので、それもやり方の1つかなと考えております。

齋藤会長 何か要求されているものがあって、そこに出す数字の副産物とし

てここで見るができること。そうすると例えば、今年と同じタイミングで出していただいたらいいんじゃないでしょうか。

他にございませんでしょうか。

中井委員 経営戦略のお話が出ましたので、お尋ねするんですけれども。令和5年度で見直しをされて、次は令和10年度と説明をしていただきました。その経営戦略の中で、令和10年度においては収支がマイナスになるという予測がされております。ということは、その10年度の見直しということでは、その時点でマイナスになっている可能性が高いと。ですから、これはもう2、3年の間に、なんらかの料金改定も含めて、考えていく必要があるんじゃないかと思うんですけど、その辺の考えはいかがでしょうか

松井課長 おっしゃるとおり、令和10年になってさあどうしようと言っても、料金改定をしようと思えますと、いろいろな材料の準備ももちろんそうですし、皆さんにご理解いただいた上で、料金改定というのは着手することになるのかと思えます。今日決めて、来年改定できるというようなものではないと思えます。ですので、経営戦略で令和10年から収支マイナスだから料金改定は令和10年で大丈夫というわけではなく、こういう予算決算を見ていく中で、そういった議論もしなくてはならないときがくるかもしれません。今年の決算だけ見ていたら、何とかなるかという気持ちもあるかもしれませんが、実際にお金が回らなくなってから検討ということにはなりませんので、適宜、経営状況を見ながら、そうならないための努力はする一方で、そういった場面ではご相談させていただきたいと思っております。その時には経営戦略の想定以上のペースで物価高騰が進むこともあり得ますし、他にもいろいろな要因がありますので、その都度、将来のことも計算しなおして、それを材料に議論をさせていただきたいなというふうに思っております。

中井委員 今年の決算の問題につきましても、先ほどからお話が出てましたように、その電力費が国から電力会社に対する補助で減っていると、それで経営的には非常に改善されているとあります。ただそれが来年も再来年も保障されたものでありませんので、当然経営戦略の中での予測というのが現実味を帯びてくるんじゃないかと思うんですけど、またその辺のところをお聞かせいただければと思います。

齋藤会長 一言で言ってしまっはいけないのかもしれないんですけど、経営の中身はボトムラインだけじゃなくて、どうなのかというのを見なきゃいけないのは、その通りだと思います。ですので、審議会としては、その決算報告を経営戦略と照らし合わせるというのを忠実に続けていくということなんだと思います。

工藤委員 2ページ目なんですけど、先ほど包括的民間委託をやることによる効果はその数字に表れているという話だったかと思うんですが、説明の際にも、上下水道の窓口業務を水道と下水と一緒にやっているとあったので、そこでも効率化を図っているんだと思って聞いていました。この水道包括的民間委託で、他にも下水道の方にも、メリットがあったことや、今後考えていることがあれば教えていただけますか。

松井課長 包括的民間委託に出す前から、下水道の使用料や排水設備の申請といった業務につきましては、お家を建てられるときは水道も下水もセットになっておりますので、市民サービスという観点から、水道と同じ窓口で合理的にやってきました。

山本次長 先ほど説明しましたとおり、宅内の排水、本管からの取り出しについては、以前より上下水道一体という考え方で、申請を受け付けています。詳細については水道課、下水道課で確認をしながら進めています。

今後については、ウォーターPPPという新しい取組が出てきますので、一体となるのがいいのか、下水だけがいいのかも含めて、これからの課題かと思っております。

齋藤会長 他にないようでしたら終わりにしたいと思います。ありがとうございました。本日用意しております議題は以上となります。閉会にあたりまして、越後副会長より一言ご挨拶をいただきたいと思っております。

越後副会長 皆さん、大変お疲れ様でした。先ほど申し上げた通り、昨年度の決算としては、非常にいいまとまり方をしていて、その中で来年度以降、或いは5年後の経営戦略の見直しだとか、先々の話も出てきました。ただ、最近の国際情勢だとか、選挙の結果だとか、コロナもあったと

いうので、なかなか将来の見通しがしにくい時代になっており、確かなのは人口が減っていくということだけ、というなかなか厳しい状況です。そんなときだからこそ、福知山市さんは比較的先進的なことをやられており、結構かと思うんですが、引き続きやれることは、合理的・効率的に進めていかれるのがいいのかなと思いましたし、委員の皆さんからは、引き続きいろんな角度からご意見いただければと思います。

齋藤会長 どうもありがとうございました。今年度の経営審議会につきましては今回で終了となります。次回の開催でございますが、毎年定例として、4月中旬の開催を予定しております。これをもちまして令和6年度第2回福知山市上下水道事業経営審議会を終了したいと思います。委員の皆様どうもありがとうございました。